

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2008 に準拠して作成

HMG-CoA 還元酵素阻害剤
高脂血症治療剤

プラバスタン錠5
プラバスタン錠10

Pravastan.
プラバスタチンナトリウム製剤

剤 形	錠剤（素錠）
製 剤 の 規 制 区 分	処方せん医薬品（注意-医師等の処方せんにより使用すること）
規 格 ・ 含 量	プラバスタン錠 5：1 錠中(日局)プラバスタチンナトリウム 5mg 含有 プラバスタン錠 10：1 錠中(日局)プラバスタチンナトリウム 10mg 含有
一 般 名	和名：プラバスタチンナトリウム（JAN、INN） 洋名：Pravastatin sodium（JAN、INN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造承認年月日 2003 年 3 月 12 日 薬価基準収載年月日 2003 年 7 月 4 日 発 売 年 月 日 2003 年 7 月 4 日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：日本薬品工業株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問 い 合 わ せ 窓 口	日本薬品工業株式会社 安全管理課 TEL. 03-5833-5011/FAX. 03-5833-5100 受付時間：9:00 ～ 17:00（土日祝祭日を除く） 医療関係者向けホームページ http://www.npi-inc.co.jp/medical.html

本 IF は 2010 年 1 月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.info.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要

ー日本病院薬剤師会ー

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな IF 記載要領が策定された。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 判、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとの IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「IF 記載要領 2008」と略す）により作成された IF は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ①「IF 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2008」においては、従来の主に MR による紙媒体での提供に替え、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関での IT 環境によっては必要に応じて MR に印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008 年 9 月)

目 次

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯 1
2. 製品の治療学的・製剤学的特性 1

II. 名称に関する項目

1. 販売名 2
2. 一般名 2
3. 構造式又は示性式 2
4. 分子式及び分子量 2
5. 化学名（命名法） 2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号 3
7. CAS 登録番号 3

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質 4
2. 有効成分の各種条件下における安定性 4
3. 有効成分の確認試験法 4
4. 有効成分の定量法 4

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形 5
2. 製剤の組成 5
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意 5
4. 製剤の各種条件下における安定性 6
5. 調整法及び溶解後の安定性 10
6. 他剤との配合変化（物理化学的变化） 10
7. 溶出性 10
8. 生物学的試験法 10
9. 製剤中の有効成分の確認試験法 10
10. 製剤中の有効成分の定量法 10
11. 力価 10
12. 混入する可能性のある夾雑物 11
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報 11
14. その他 11

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果 12
2. 用法及び用量 12
3. 臨床成績 12

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群 13
2. 薬理作用 13

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法 16
2. 薬物速度論的パラメータ 17
3. 吸収 18
4. 分布 18
5. 代謝 18
6. 排泄 18
7. 透析等による除去率 19

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由 20
2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む） 20
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由 20
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由 20
5. 慎重投与内容とその理由 20
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法 21
7. 相互作用 21
8. 副作用 21
9. 高齢者への投与 22
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 23
11. 小児等への投与 23
12. 臨床検査結果に及ぼす影響 23
13. 過量投与 23
14. 適用上の注意 23
15. その他の注意 23
16. その他 23

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験 24
2. 毒性試験 24

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分 25
2. 有効期間又は使用期限 25
3. 貯法・保存条件 25
4. 薬剤取扱い上の注意点 25
5. 承認条件等 25
6. 包装 25
7. 容器の材質 26
8. 同一成分、同効薬 26
9. 国際誕生年月日 26
10. 製造販売承認年月日及び承認番号 26
11. 薬価基準収載年月日 26
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容 26
13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容 26
14. 再審査期間 26
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報 26
16. 各種コード 26
17. 保険給付上の注意 26

X I. 文献

1. 引用文献 27
2. その他の参考文献 27

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況 27
2. 海外における臨床支援情報 27

X III. 備考

- その他の関連資料 27

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

プラバスタチンナトリウム製剤は HMG-CoA 還元酵素阻害剤 高脂血症治療剤であり、本邦では 1989 年に上市されている。

プラバスタン錠 5 及びプラバスタン錠 10 は、後発医薬品として日本薬品工業(株)が開発を企画し、2003 年 3 月に承認を得て、2003 年 7 月より販売している。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) コレステロール生合成系の律速酵素である HMG-CoA 還元酵素を特異的かつ拮抗的に阻害する。
その作用はコレステロール合成の主要臓器である肝臓、小腸に選択的であり、血清コレステロール値を速やかにかつ強力に低下させ、血清脂質を改善させる。
- (2) 重大な副作用として横紋筋融解症、肝障害、血小板減少、ミオパシー、末梢神経障害、過敏症状が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1)和名

プラバスタン®錠 5

プラバスタン®錠 10

(2)洋名

Pravastan ®

(3)名称の由来

本剤の一般名(プラバスタチンナトリウム)に由来する。

2. 一般名

(1)和名 (命名法)

プラバスタチンナトリウム (JAN、INN)

(2)洋名 (命名法)

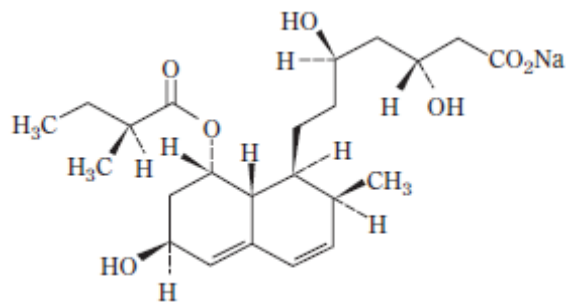
Pravastatin sodium (JAN、INN)

(3)ステム

脂質異常症治療薬、HMG CoA 還元酵素阻害薬：-vastatin

3. 構造式又は示性式

構造式：



4. 分子式及び分子量

分子式：C₂₃H₃₅NaO₇

分子量：446.51

5. 化学名 (命名法)

Monosodium (3R,5R)-3,5-dihydroxy-7-[(1S,2S,6S,8S,8aR)-6-hydroxy-2-methyl-8-[(2S)-2-methylbutanoyloxy]-1,2,6,7,8,8a-hexahydronaphthalen-1-yl]heptanoate (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

7. CAS 登録番号

81131-70-6

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～帯黄白色の粉末又は結晶性の粉末である。

(2) 溶解性

日局表現	溶媒
溶けやすい	水、メタノール
やや溶けやすい	エタノール(99.5)

溶解度(37℃)¹⁾

液性	溶解度
pH1.2	100mg/mL 以上
pH4.0	100mg/mL 以上
pH6.8	100mg/mL 以上
水	100mg/mL 以上

(3) 吸湿性

本品は吸湿性である。

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数¹⁾

pKa：4.6(カルボキシル基、滴定法)(25℃)

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$ ：+153°～+159°(脱水及び脱溶媒物に換算したもの 0.10g、水、20mL、100mm)

本品 1.0g を新たに煮沸して冷却した水 20mL に溶かした液の pH は 7.2～8.2 である。

2. 有効成分の各種条件下における安定性¹⁾

水	37℃、6 時間は安定である。
液性(pH)	pH1.2、37℃、30 分で約 90%分解する。 pH4.0 及び pH6.8 において、37℃、6 時間は安定である。
光	なし
その他	なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 紫外可視吸光度測定法

(2) 赤外吸収スペクトル法の臭化カリウム錠剤法

(3) 薄層クロマトグラフィー

(4) ナトリウム塩の定性反応

4. 有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

規格	性状	サイズ	表面	裏面	側面
プラバスタン錠 5	白色の素錠	直径:6.5mm 厚さ:2.0mm 重量:90mg			
プラバスタン錠 10	割線入り微紅色の素錠	直径:7.5mm 厚さ:3.0mm 重量:140mg			

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

プラバスタン錠 5 : 錠剤表面に NPI P5

プラバスタン錠 10 : 錠剤表面に NPI P10

(4) pH、浸透圧比、粘土、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

プラバスタン錠 5 : 1 錠中に(日局)プラバスタチンナトリウム 5mg を含有する。

プラバスタン錠 10 : 1 錠中に(日局)プラバスタチンナトリウム 10mg を含有する。

(2) 添加物

プラバスタン錠 5 : カルメロースナトリウム、結晶セルロース、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物

プラバスタン錠 10 : 黄色三二酸化鉄、カルメロースナトリウム、結晶セルロース、三二酸化鉄、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物

(3) その他

該当しない

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性²⁾

各種条件下における安定性

(1)加速試験

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 か月）の結果、プラバスタン錠 5 及びプラバスタン錠 10 は、通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

<プラバスタン錠 5>

1) PTP・アルミ袋包装品

試験項目		判定基準	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性 状		白色の素錠	適合	適合	適合	適合
確認試験	呈色反応	液は紫色～暗紫色を呈する。	適合	適合	適合	適合
	吸光度測定法	吸収の極大 237～241nm	適合	適合	適合	適合
崩壊試験		(日局) 崩壊試験法(1)	適合	適合	適合	適合
定 量 法		95.0～105.0%	100.0	99.7	99.8	98.0

2) バラ・ガラス製容器充填密栓

試験項目		判定基準	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性 状		白色の素錠	適合	適合	適合	適合
確認試験	呈色反応	液は紫色～暗紫色を呈する。	適合	適合	適合	適合
	吸光度測定法	吸収の極大 237～241nm	適合	適合	適合	適合
崩壊試験		(日局) 崩壊試験法(1)	適合	適合	適合	適合
定 量 法		95.0～105.0%	100.0	99.6	99.0	98.1

<プラバスタン錠 10>

1)PTP・アルミ袋包装品

試験項目		判定基準	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性 状		割線入りの微紅色の素錠	適合	適合	適合	適合
確認試験	呈色反応	液は紫色～暗紫色を呈する。	適合	適合	適合	適合
	吸光度測定法	吸収の極大 237～241nm	適合	適合	適合	適合
定 量 法		95.0～105.0%	100.5	99.6	99.5	98.2

2)バラ・ガラス製容器充填密栓

試験項目		判定基準	開始時	1 ヶ月	3 ヶ月	6 ヶ月
性 状		割線入りの微紅色の素錠	適合	適合	適合	適合
確認試験	呈色反応	液は紫色～暗紫色を呈する。	適合	適合	適合	適合
	吸光度測定法	吸収の極大237～241nm	適合	適合	適合	適合
定 量 法		95.0～105.0%	100.5	99.7	99.4	97.9

(2)無包装状態での安定性試験

無包装製品を用いた安定性試験（25±2℃、相対湿度 75±5%、3 ヶ月）の結果、プラバスタン錠 5 及びプラバスタン錠 10 は安定であった。

＜プラバスタン錠 5＞

試験項目	規格値	保存期間				
		開始時	0.5 か月	1 か月	2 ヶ月	3 か月
性状・外観	白色	白色	白色	白色	白色	白色
吸湿試験(%)	—	—	1.4	1.2	1.0	1.6
錠高変動率(%)	—	—	1.5	1.5	2.0	1.5
硬度(kg)	—	3.0	2.8	2.9	2.8	2.6
溶出試験 (%)	30 分間の溶出率が 85(%)以上	100.4 (98.0～104.2)	101.9 (100.7～103.7)	97.1 (95.8～98.6)	100.2 (97.0～103.9)	98.6 (95.1～104.0)
純度試験	相対保持時間 1.7 の類縁物質：2.0(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の最大類縁物質：0.2(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の類縁物質合計：0.7(%)以下	適合	適合	適合	適合	適合
定量試験 (%)	95.0～105.0	99.2	98.6	99.5	99.7	100.6

注) 表中の数値は平均値であり、() 内の数値は最小値～最大値である。

<プラバスタン錠 10>

試験項目	規格値	保存期間				
		開始時	0.5 か月	1 か月	2 ヶ月	3 か月
性状	微紅色の素錠	微紅色	微紅色	微紅色	微紅色	微紅色
吸湿試験(%)	—	—	1.8	1.8	2.0	1.9
錠高 変動率(%)	—	—	2.0	2.0	2.0	1.7
硬度(kg)	—	4.0	3.3	3.5	3.0	2.8
溶出試験 (%)	30 分間の溶出 率が 85(%)以 上	98.9 (97.7～ 100.7)	98.1 (93.6～ 100.7)	96.9 (94.6～ 99.1)	96.3 (93.9～ 98.6)	94.8 (89.6～ 97.6)
純度試験	相対保持時間 1.7 の類縁物 質：2.0(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の最 大類縁物質： 0.2(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の類 縁物質合計： 0.7(%)以下	適合	適合	適合	適合	適合
定量試験 (%)	95.0～105.0	99.3	98.3	99.9	99.1	99.1

注) 表中の数値は平均値であり、() 内の数値は最小値～最大値である。

(3)光曝露下での安定性試験

無包装製品を用いた光曝露下安定性試験（25℃、1000Lux・24 時間照射/日、25 日 [総照射 60 万 Lux・hr]）の結果、プラバスタン錠 5 は、無包装状態で 60 万 Lux・hr 曝露後も製剤として安定であり、使用には問題ないと判断できる。しかしながら、性状・外観に関して、僅かに変化が生じることから、開封後は光を避け速やかに使用することを推奨する。また、プラバスタン錠 10 に関しては、安定であった。

<プラバスタン錠 5>

試験項目	規格値	保存期間	
		開始時	60 万 Lux・hr
性状	白色の素錠	白色	僅かに黒ずんだ白色 (薄い斑点)
硬度(kg)	—	2.7 (2.3~3.2)	2.9 (2.5~3.3)
吸湿試験(%)	—	—	0.34
純度試験	相対保持時間 1.7 の類縁物質：2.0(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の最大類縁物質：0.2(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の類縁物質合計：0.7(%)以下	適合	適合
溶出試験 (%)	30 分間の溶出率が 85(%)以上	96.2	97.2
定量試験 (%)	95.0~105.0	100.4	100.2

注) 表中の数値は平均値であり、() 内の数値は最小値~最大値である。

<プラバスタン錠 10>

試験項目	規格値	保存期間	
		開始時	60 万 Lux・hr
性状	微紅色の素錠	微紅色	微紅色
硬度(kg)	—	5.7 (5.0~6.4)	4.9 (4.4~5.5)
吸湿試験(%)	—	—	0.51
純度試験	相対保持時間 1.7 の類縁物質：2.0(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の最大類縁物質：0.2(%)以下 相対保持時間 1.7 以外の類縁物質合計：0.7(%)以下	適合	適合
溶出試験 (%)	30 分間の溶出率が 85(%)以上	98.0	100.7
定量試験 (%)	95.0~105.0	101.1	101.1

注) 表中の数値は平均値であり、() 内の数値は最小値~最大値である。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性³⁾

プラバスタン錠 5 及びプラバスタン錠 10 は日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたプラバスタチンナトリウム錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

（方法）日局溶出試験パドル法

条件：試験液 水 900mL

回転数 50rpm

溶出規格：5mg 15 分 85%以上

10mg 30 分 85%以上

（結果）プラバスタン錠 5 及びプラバスタン錠 10 は上記溶出挙動に適合する。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

(1)過塩素酸鉄(Ⅲ)・エタノール試液による呈色反応

(2)紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量法

日局一般試験法「液体クロマトグラフィー」

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

本品はプラバスタチンナトリウムを 99%以上含有しており、本品中に含まれる類縁物質の含有率は検出限界以下～0.09%と少なかった(HPLC 法)。

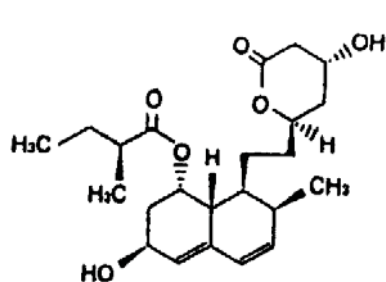
プラバスタン錠 5 (n=3)

類縁物質	RMS-437	RMS-438	RMS-418	RMS-416	RMS-414	その他
面積百分率	(-)～0.01	(-)	0.09	(-)	(-)～0.02	(-)～0.00

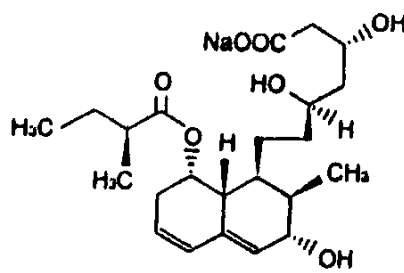
プラバスタン錠 10 (n=3)

類縁物質	RMS-437	RMS-438	RMS-418	RMS-416	RMS-414	その他
面積百分率	(-)～0.01	(-)	0.08～0.09	(-)	(-)	0.00

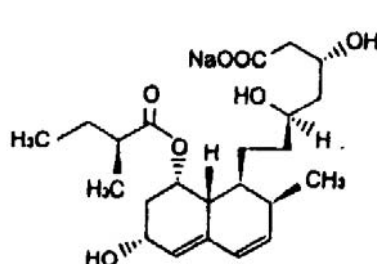
(-)：検出限界以下



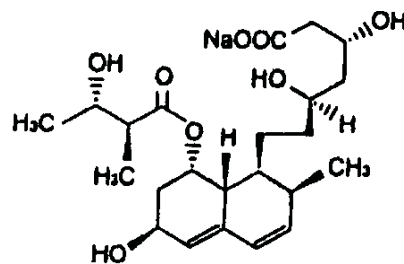
RMS-414



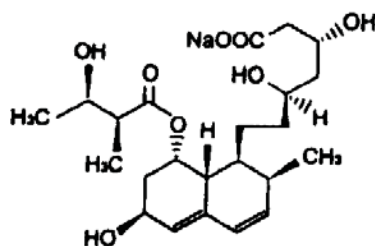
RMS-416



RMS-418



RMS-438



RMS-437

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当しない

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

高脂血症

家族性高コレステロール血症

2. 用法及び用量

通常、成人にはプラバスタチンナトリウムとして、1 日 10mg を 1 回又は 2 回に分け経口投与する。
なお、年齢・症状により適宜増減するが、重症の場合は 1 日 20mg まで増量できる。

3. 臨床成績

(1)臨床データパッケージ（2009 年 4 月以降承認品目）

該当しない

(2)臨床効果

該当資料なし

(3)臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(4)探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

(5)検証的試験

1)無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2)比較試験

該当資料なし

3)安全性試験

該当資料なし

4)患者・病態別試験

該当資料なし

(6)治療的使用

1)使用成績調査・特別使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群

HMG-CoA 還元酵素阻害剤(シンバスタチン、フルバスタチン、アトルバスタチン)

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

該当資料なし

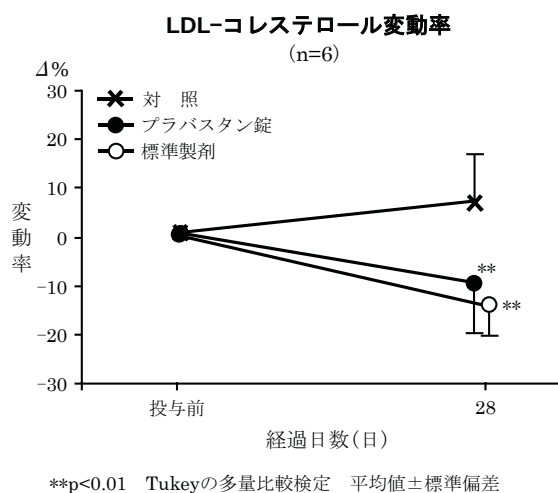
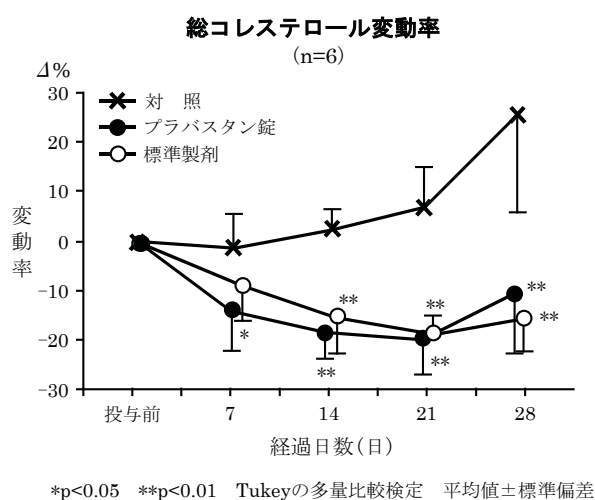
(2) 薬効を裏付ける試験成績⁴⁾

脂質低下作用

1) 家族性高コレステロール血症モデルを用いた検討(WHHL ウサギ)

プラバスタチンナトリウムを WHHL-ウサギ (ヒト家族性高コレステロール血症のモデル動物) に経口投与したところ、血清コレステロール、VLDL-コレステロール及び LDL-コレステロールを有意に低下させることが認められた。

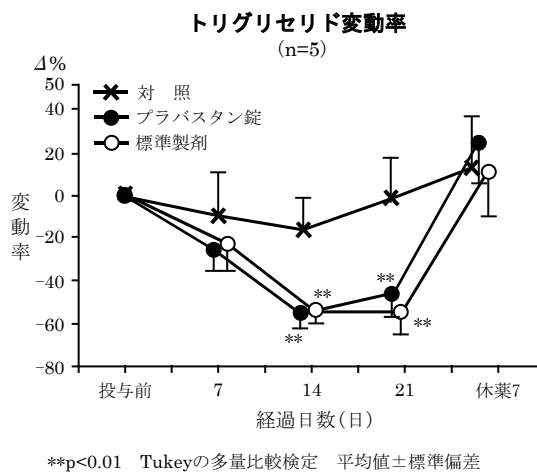
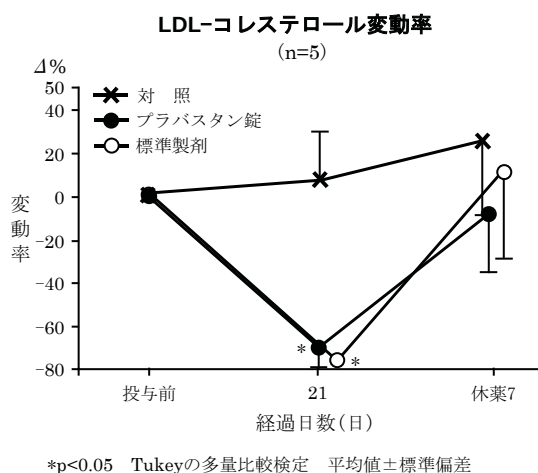
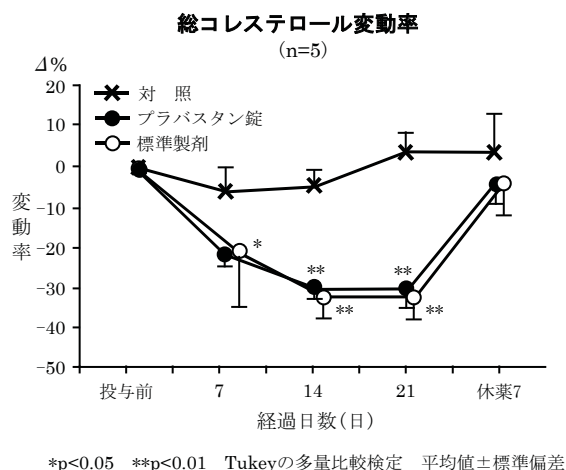
実験方法：LDL-レセプターを欠損している家族性高コレステロール血症雄性ウサギ (WHHL：11～13 週齢) に、精製水に懸濁したプラバスタン錠及び標準製剤を 4 週間経口投与(50mg/kg/day)した。対照群には精製水 5mL/kg/day を経口投与した。



2) ビーグルを用いた検討(イヌ)

プラバスタチンナトリウムをビーグル犬に経口投与したところ、血清コレステロール、トリグリセリド、リン脂質を有意に低下させることが認められた。

実験方法：雄性ビーグル(5ヵ月齢)に、精製水に懸濁したプラバスタン錠及び標準製剤を3週間経口投与(20mg/kg/day)し、対照群には精製水 2mL/kg/day を経口投与した。その後、1週間の休薬期間を設けた。



(3)作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間⁵⁾

健康成人男性に本剤 10mg（プラバスタン錠 5 2 錠及びプラバスタン錠 10 1 錠）（n=30）を絶食単回経口投与したときの T_{max} はプラバスタン錠 5 1.12±0.23 時間及びプラバスタン錠 10 1.03±0.22 時間であった。

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

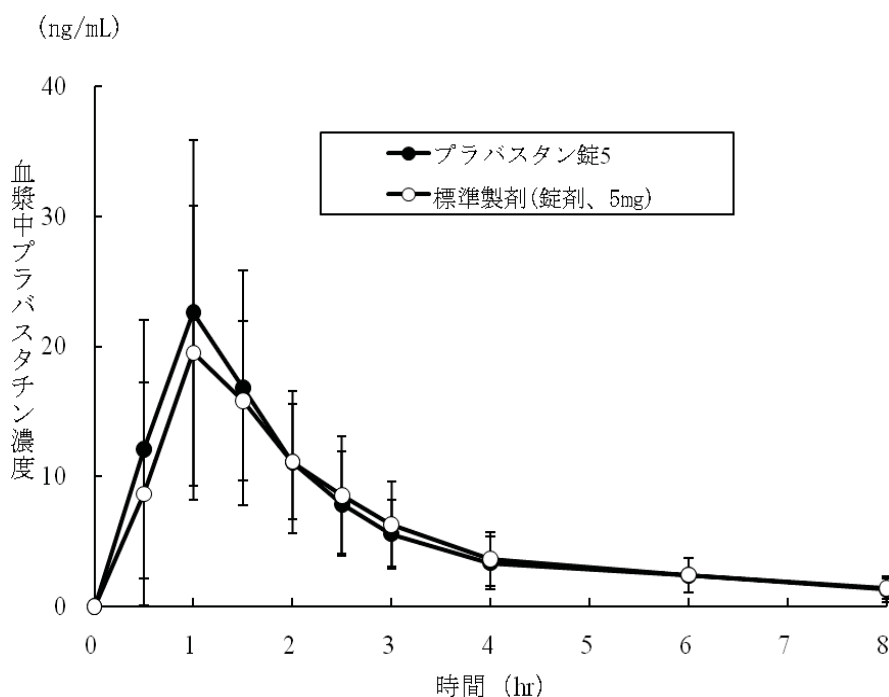
生物学的同等性試験⁵⁾

プラバスタン錠 5 又はプラバスタン錠 10 とそれぞれの標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 2 錠（プラバスタチンナトリウム 10mg）又は 1 錠（プラバスタチンナトリウム 10mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、C_{max}）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log（0.8）～ log（1.25）の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

<プラバスタン錠 5>

製品名	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
プラバスタン錠 5	48.71±25.09	22.66±12.36	1.12±0.25	1.98±0.62
標準製剤 (錠剤、5mg)	49.65±23.78	21.03±10.52	1.12±0.25	1.96±0.46

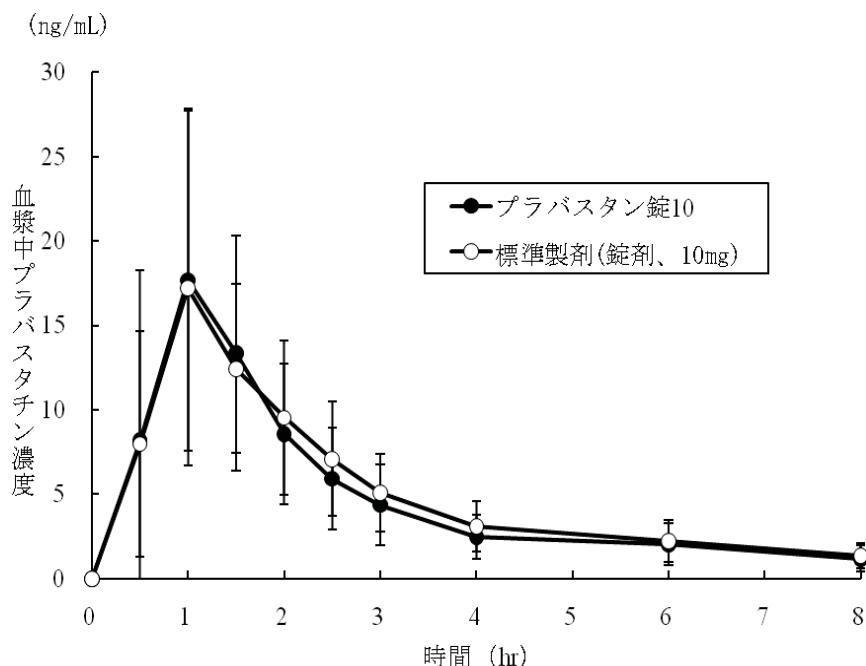
(平均値±標準偏差、n=30)



<プラバスタン錠 10>

製品名	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
プラバスタン錠 10	37.94±21.48	17.31±10.75	1.03±0.22	2.17±0.84
標準製剤 (錠剤、10mg)	38.97±18.27	17.01±8.88	1.15±0.27	2.05±0.51

(平均値±標準偏差、n=30)



血中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4)中毒域

該当資料なし

(5)食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6)母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1)コンパートメントモデル

該当資料なし

(2)吸収速度定数

該当資料なし

(3)バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液－脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁中への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3)排泄速度

該当資料なし

7. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

(1)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

(2)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦（「VIII-10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）

【原則禁忌】（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）

腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィブラート系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ併用すること。

〔横紋筋融解症があらわれやすい。〕（「VIII-7.相互作用」の項参照）

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当なし

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当なし

5. 慎重投与内容とその理由

(1)重篤な肝障害又はその既往歴のある患者、アルコール中毒の患者

〔本剤は主に肝臓において代謝され、作用するので肝障害を悪化させるおそれがある。また、アルコール中毒の患者は、横紋筋融解症があらわれやすいとの報告がある。〕

(2)腎障害又はその既往歴のある患者

〔横紋筋融解症の報告例の多くが腎機能障害を有する患者であり、また、横紋筋融解症に伴って急激な腎機能の悪化が認められている。〕

(3)フィブラート系薬剤（ベザフィブラート等）、免疫抑制剤（シクロスポリン等）、ニコチン酸を投与中の患者

〔横紋筋融解症があらわれやすい。〕（「VIII-7. 相互作用」の項参照）

(4)甲状腺機能低下症の患者、遺伝性の筋疾患（筋ジストロフィー等）又はその家族歴のある患者、薬剤性の筋障害の既往歴のある患者

〔横紋筋融解症があらわれやすいとの報告がある。〕

(5)高齢者（「VIII-9. 高齢者への投与」の項参照）

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- (1)適用の前に十分な検査を実施し、**高脂血症、家族性高コレステロール血症であることを確認した上で**本剤の適用を考慮すること。本剤は高コレステロール血症が主な異常である高脂血症によく反応する。
- (2)あらかじめ高脂血症の基本である**食事療法**を行い、更に**運動療法**や高血圧・喫煙等の虚血性心疾患のリスクファクターの軽減等も十分考慮すること。
- (3)投与中は**血中脂質値を定期的に検査**し、治療に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。

7. 相互作用

(1)併用禁忌とその理由

原則併用禁忌（原則として併用しないこと）

腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者では原則として併用しないこととするが、治療上やむを得ないと判断される場合にのみ慎重に併用すること。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フィブラート系薬剤 ベザフィブラート等	急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい〔自覚症状（筋肉痛、脱力感）の発現、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇並びに血清クレアチニン上昇等の腎機能の悪化を認めた場合は直ちに投与を中止すること。〕。	危険因子：腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者

(2)併用注意とその理由

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フィブラート系薬剤 ベザフィブラート等	急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれやすい〔自覚症状（筋肉痛、脱力感）の発現、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を認めた場合は直ちに投与を中止すること。〕。	腎機能異常の有無にかかわらず、両剤とも単独投与により横紋筋融解症が報告されている。
免疫抑制剤 シクロスポリン等 ニコチン酸		危険因子：重篤な腎障害のある患者

8. 副作用

(1)副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

- 1) 横紋筋融解症(頻度不明)：筋肉痛、脱力感、CK (CPK) 上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれ、これに伴って急性腎不全等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、このような場合には直ちに投与を中止すること。
- 2) 肝障害(頻度不明)：黄疸、著しいAST (GOT)・ALT (GPT) の上昇等を伴う肝障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合は投与を中止し適切な処置を行うこと。
- 3) 血小板減少(頻度不明)：血小板減少があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。
[紫斑、皮下出血等を伴う重篤な症例も報告されている。]
- 4) ミオパシー(頻度不明)：ミオパシーがあらわれたとの報告がある。
- 5) 末梢神経障害(頻度不明)：末梢神経障害があらわれたとの報告がある。
- 6) 過敏症状(頻度不明)：ループス様症候群、血管炎等の過敏症状があらわれたとの報告がある。

(3) その他の副作用

	頻度不明
皮膚 ^{注1)}	発疹、湿疹、蕁麻疹、掻痒、紅斑、脱毛、光線過敏
消化器	嘔気・嘔吐、便秘、下痢、腹痛、胃不快感、口内炎、消化不良、腹部膨満感、食欲不振、舌炎
肝臓	AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、Al-P 上昇、LDH 上昇、 γ -GTP 上昇、肝機能異常、ビリルビン上昇
腎臓	BUN 上昇、血清クレアチニン上昇
筋肉 ^{注2)}	CK (CPK) 上昇、筋肉痛、筋痙攣、筋脱力
精神神経系	頭痛、不眠、めまい
血液 ^{注1)}	白血球減少、血小板減少、貧血
その他	尿酸値上昇、尿潜血、倦怠感、浮腫、しびれ、顔面潮紅、耳鳴、関節痛、味覚異常

注 1) 投与を中止すること。

注 2) 横紋筋融解症の前駆症状の可能性があるので、観察を十分に行い必要に応じ投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「VIII-2(1) 禁忌とその理由」、「VIII-8(2) 重大な副作用と初期症状」、「VIII-8(3) その他の副作用」の項参照

9. 高齢者への投与

高齢者では、加齢による腎機能低下を考慮し、定期的に血液検査を行い、患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。

[横紋筋融解症の報告例の多くが腎機能障害を有している。]

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していないが、他の HMG-CoA 還元酵素阻害剤において、動物実験で出生仔数の減少、生存・発育に対する影響及び胎仔の生存率の低下と発育抑制が報告されている。また他の HMG-CoA 還元酵素阻害剤において、ラットに大量投与した場合に胎仔の骨格奇形、ヒトでは妊娠 3 ヶ月までの間に服用した場合に胎児の先天性奇形があらわれたとの報告がある。]

(2)授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。

[ラットで乳汁中への移行が報告されている。]

11. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13. 過量投与

該当資料なし

14. 適用上の注意

(1)服用時：メバロン酸の生合成は夜間に亢進することが報告されているので、適用にあたっては、1 日 1 回投与の場合、夕食後投与とすることが望ましい。

(2)薬剤交付時：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。

[PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

15. その他の注意

該当なし

16. その他

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1)薬効薬理試験（「VI.薬効薬理に関する項目」参照）

(2)副次的薬理試験

該当資料なし

(3)安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1)単回投与毒性試験

該当資料なし

(2)反復投与毒性試験

該当資料なし

(3)生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4)その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：プラバスタン錠 5 処方せん医薬品^{注)}

プラバスタン錠 10 処方せん医薬品^{注)}

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：製造後 3 年

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱いについて

「Ⅷ-6 重要な基本的注意とその理由及び処置方法」、「Ⅷ-14.適用上の注意」の項参照

(2) 薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）

「Ⅷ-14.適用上の注意」の項参照

プラバスタン錠を服用される患者様へ

プラバスタン錠は、血液中のコレステロールを減らすおくすりです。

このおくすりは、筋肉の副作用としてごくまれに「横紋筋融解症」が起こることが知られています。

次のような症状がみられましたら横紋筋融解症の可能性があるので直ちに服用をやめて、すぐに主治医の先生または薬剤師の先生にご相談下さい。

●筋肉が痛い ●手足の力が入らない

●尿の色が濃い(赤褐色になる)

副作用はどんなおくすりにもありますが、早期に発見し適切な処置をおこなえば大事に至ることはほとんどありません。

また、ほかにもおくすりを服用して体調がおかしいと感じましたら主治医の先生または薬剤師の先生にご相談下さい。

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

プラバスタン錠 5：100 錠（10 錠×10）、500 錠（10 錠×50）、700 錠（14 錠×50）、
1000 錠（10 錠×100）、1000 錠（バラ）

プラバスタン錠 10：100 錠（10 錠×10）、500 錠（10 錠×50）、500 錠（バラ）、700 錠（14 錠×50）、
1000 錠（10 錠×100）

7. 容器の材質

PTP：ポリ塩化ビニル、アルミ箔

内袋：アルミラミネートフィルム

バラ：褐色透明ガラス瓶、キャップ：金属、詰め物：ポリエチレン

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬品：メバロチン錠 5・錠 10・細粒 0.5%・細粒 1%（第一三共）

同 効 薬：シンバスタチン、フルバスタチンナトリウム、アトルバスタチンカルシウム水和物、
ピタバスタチンカルシウム、ロスバスタチンカルシウム

9. 国際誕生年月日

1989 年 3 月 31 日

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造承認年月日：2003 年 3 月 12 日

製造承認番号：プラバスタン錠 5 ：21500AMZ00154000

プラバスタン錠 10 ：21500AMZ00155000

11. 薬価基準収載年月日

2003 年 7 月 4 日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

販売名	HOT（9 桁）番号	厚生労働省薬価基準収 載医薬品コード	レセプト 電算コード
プラバスタン錠 5	115286902	2189010F1195	620000109
プラバスタン錠 10	115287602	2189010F2213	620000110

17. 保険給付上の注意

本剤は、保険診療上の後発医薬品である。

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) (財)日本公定書協会編：医療用医薬品品質情報集(Orange Book No.27)
- 2)日本薬品工業株式会社：安定性に関する資料（社内資料）
- 3)日本薬品工業株式会社：溶出に関する資料（社内資料）
- 4)木口雅夫、他：Prog.Med.23, 1881～1886（2003）
- 5)日本薬品工業株式会社：生物学的同等性に関する資料（社内資料）

2. その他の参考文献

第15改正 日本薬局方

The use of stems in the selection of International Nonproprietary Names (INN) for pharmaceutical substances, 2006

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

XIII. 備考

その他関連資料